

Close Up クローズアップ 交通教育センター

自転車事故に遭う過程を再現し、生徒に安全行動を考えてもらう

昨年11月、浜松市中区が自転車で通学する生徒が多い区内の中学校2校と高校1校で交通安全教室を開催。その指導を交通教育センターレイボー浜名湖のインストラクターが担当した。

11月15日に実施された浜松市立開成中学校では1年生200名が受講。校庭につくられた模擬の交差点に集まった生徒を前に、進行役のインストラクターが「今日は私たちが交通事故の事例を再現しますので、なぜ事故が起きてしまうのか考えてほしいと思います」と挨拶して、交通安全教室が始まる。

まず、インストラクターが乗る自転車が停車中のクルマの左横をすり抜け、減速せずに交差点に進入。すると、対向車線から右折するクルマと衝突しそうになってしまう。自転車に乗っていたインストラクターは「停止して

いるクルマを通り過ぎるまで右折車は見えませんでした」、右折車を運転していたインストラクターは「自転車が来ているのは全然わかりませんでした」と、それぞれ答えた。そして、このような場面で事故に遭わないために必要な安全行動について考えてもらった後、インストラクターが模範を示す。「停止しているクルマのカゲから別のクルマや自転車、歩行者が飛び出してくるかもしれません。ですから、必ず一時停止して、安全を確認してから交差点に進入してください」と説明した。このほか、左折巻き込み事故や歩行者との出会い頭事故にいたる過程も再現された。

最後に生徒の代表者3名が反応制動を体験。前方の信号機に向かって自転車を走らせ、信号が点灯したらブレーキをかけて停止するというもの（信号は自転車がある地点を通過し



直進の自転車と右折するクルマとの右直事故を再現



直進の自転車が左折するクルマに巻き込まれる事故を再現



交通教育センターレイボー浜名湖のインストラクターが自転車乗中に事故に遭わないために必要な安全行動を解説

たら点灯するように設定)。1回目はゆっくり、2回目は全力で自転車をこいでもらい、それぞれの停止距離を比較する。1回目は約3m、2回目は約5mという結果となった。危険を認知してブレーキをかけても自転車はすぐに止まれないこと、スピードを出していると停止距離は長くなることを生徒に確認してもらった。

「街には危険がたくさんあります。特に見通しの悪い場所では、見えないところから何か出てくるかもしれないと予測することが事故防

止につながります。朝、登校する時は早めに家を出るなど、慌てないように余裕を持つことも大切です」とインストラクターがアドバイスし、交通安全教室は終了した。

同校で交通安全を担当する教諭 関翔太さんは「事故が起きやすい場面を再現してもらったので、生徒たちもイメージしやすかったと思います。また、クルマから自転車がどのように見られているかというドライバーの視点を学べたことも良かったと感じました」と感想を語った。



自転車が死角から出てくる歩行者と衝突する事故を再現



正面の信号が点灯したらブレーキをかけて停止する反応制動

自然の中をオフロードバイクで走る楽しさを気軽に感じてもらうために

Hondaの交通教育センターでは個人のお客様に楽しくバイクの安全運転を身につけていただくため、Honda モーターサイクリスト スクール (HMS) を開催している。

栃木県茂木町にあるアクティブセーフティトレーニングパーク (ASTP) はHMSの中に「レンタルバイクでわくわく里山探検」という半日コースを新設した。

『オフロードバイクに乗ってみたい』『林道を走ってみたい』と思っていても、なかなか踏み出せない方もいるでしょう。私たちの施設があるツインリンクもてぎは山に囲まれ、自然豊かです。オフロード未経験の方々に野山をバイクで駆け回る楽しさを感じていただきたいと思いましたが、ASTP大谷真至所長は話す。

11月28日、第1回が開催され、8名が受講した。準備体操を終えた受講者はオフロードバイクに乗り、舗装路のトレーニングコースを周回。オフロードバイク特有の運転姿勢

と操作方法に慣れてもらう。その後、里山のふもとへ移動。不整地コースで林道での上り方・下り方のポイントをインストラクターが説明する。「上り坂の途中で止まった時、前輪のブレーキだけをかけると、車体がズルズル下がってしまいます。右足で後輪のブレーキをしっかりかけてください。そして、ギアが入ったままクラッチをつなぎ、あえてエンストをさせます。ギアが入っているので、車体が動くことはありません。この状態で私たちの救援を待ってください」。一人ひとりが練習用の坂道でこの手順を確認した。

そして、里山に入っていく。最初は里山の中に設けられた周回コースを走行。途中の数カ所にインストラクターが立ち、安全かつスムーズに走るためのアドバイスを伝えた。受講者が林道での運転に慣れてくると、いよいよ里山の頂上をめざし上っていく。全員が無事に上りきることができ、山頂の展望台から



「レンタルバイクでわくわく里山探検」ではオフロード未経験者でもインストラクターのサポートで無理なく林道走行を楽しむことができる

広がる景色を楽しんだ。千葉県から友人と一緒に受講した男性は「いろいろな車種に乗りましたが、オフロードバイクだけは未経験でした。ちょうど、こちらのほうにキャンプに来る予定があり、申し込みました。短い時間でしたが、本格的な林道を体験できて満足しています。慣れない場所を走るの、『先に障害物はないか』『前車が突然、止まったりしないか』など意識しました。

あらためて危険予測の重要性を再確認できました」と感想を語った。

大谷所長は「ここには交通教育センターだけでなく、様々な施設があります。例えば、親御さんが受講している間、お子さまはほかの施設のアトラクションなどで過ごし、夜は家族そろってグランピングを楽しんでいただくこともできます」と新たな取り組みに期待を寄せている。



不整地の練習コースで上り下りでの運転姿勢などを確認



林道ツーリングを楽しみながら山頂をめざす受講者



インストラクターの適切な声かけが受講者に好評だった



山頂では360度のパノラマ風景を望むことができる